

# JIS

## ステンレス鋼の表面さび発生程度評価方法

JIS G 0595 : 2004

(JSSA/JSA)

平成 16 年 9 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 鉄鋼技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	木原 諄 二	日本大学
(委員)	大河内 春 乃	東京理科大学
	大橋 守	新日本製鐵株式会社
	小澤 宏 一	JFE スチール株式会社
	鍛地 楯 生	財団法人日本海事協会
	加藤 碩	ステンレス協会
	國府 勝 郎	東京都立大学
	近藤 良太郎	社団法人日本電機工業会
	佐久間 健 人	独立行政法人大学評価・学位授与機構
	三宮 好 史	社団法人日本鉄鋼連盟
	中島 將 文	社団法人日本鉄道施設協会
	長瀬 忍	高圧ガス保安協会
	福永 規	住友金属工業株式会社
	山内 学	株式会社神戸製鋼所

---

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 16.9.20

官 報 公 示：平成 16.9.21

原 案 作 成 者：ステンレス協会

(〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3 丁目 2-10 鉄鋼会館 TEL 03-3669-4431)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4 丁目 1-24 TEL 03-5770-1573)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：鉄鋼技術専門委員会 (委員長 木原 諄二)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 標準課産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、ステンレス協会 (JSSA)／財団法人日本規格協会 (JSA) から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

## 目 次

	ページ
1. 適用範囲.....	1
2. 標準写真.....	1
3. 評価方法.....	1
4. 記録.....	1
解 説.....	12

# ステンレス鋼の表面さび発生程度評価方法

## Rating method of rust and stain of atmospheric corrosion for stainless steels

- 適用範囲** この規格は、ステンレス鋼の外観上重要な、表面さびの発生程度を標準写真を用いて定量的に評価する方法について規定する。
- 標準写真** 表面さび発生程度の評価には、さび発生面積率が0~100 %の間で変化した10種類の標準写真（付図1~10）を使用する。それぞれのレイティングナンバ（以下、RNと略す。）は0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8及び9とし、RN 0は、ほぼ100 %のさび発生面積率に、RN 9は、0.01 %以下のさび発生面積率に対応する。画像解析データに基づいて求めた平均さび発生面積率とRNの関係を示す。

表 1 レイティングナンバ (RN) とさび発生面積率の関係

RN	さび発生面積率 (%)
0	100
1	69
2	47
3	32
4	22
5	15
6	2.7
7	0.41
8	0.062
9	0.009 3

- 評価方法** 試験材 100×150 mm 程度の部分の表面さび発生程度を標準写真と比較し、試験材表面と最も近似した標準写真のRNを用いて、例えば、RN 6 などのように判定する。  
なお、実構造物の表面のさび発生程度を評価する場合にも、評価すべき箇所は100×150 mm 程度の部分について、試験材の場合と同様な手順で評価する。
- 記録** 判定したRNを記録する。実構造物の表面について評価した場合には、評価した箇所を明記する。